

境界知能の児童の学習支援と情緒障害のある児童に関する調査

この度は調査へのご協力ありがとうございます。

○この調査は、「(A) 境界知能の児童の学習困難の実態と支援」「(B) 情緒障害のある児童の実態と支援」について調べることを目的としたものです。

○調査対象者は、小学部6年生(準ずる教育課程)を担当する先生です。

○正しい答え・間違った答えなどはございませんので、思った通りにお答えください。

○本調査は統計処理をするので個人が特定・公表されることは一切ありません。また、結果につきましても、学術的な目的以外に使用いたしません。

○それぞれの質問をよく読み、該当する番号に○、または空欄に必要事項を記入してお答え下さい。
ご回答もれのないようお願いいたします。

東京学芸大学・橋本創一

【フェイスシート】ご回答される先生についてお答えください。

(1) 教員勤務年数(あてはまるものに○) ※講師歴を含みます。また、学校種は問いません。

例) R5年4月から勤務の場合→2年目

1年目 ・ 2～5年目 ・ 6～10年目 ・ 11～15年目 ・ 16年以上

(2) 勤務する特別支援学校(障害)(あてはまるものに○) **視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱**

(3) 特別支援教育の担当経験 ※なしの場合は0 ※1年未満は切り捨て

通級()年 特別支援学級()年 特別支援学校()年

調査(A) 境界知能の児童の学習支援に関する質問

本研究における境界知能とは、『IQ70～85程で、知的発達の遅れは目立たないが同年齢の健常児に比して学力等に遅れがある者』を指します。

【境界知能についての理解に関する質問】ご回答される先生についてお答えください。

① 境界知能という言葉や意味について(最も近いもの1つに○)

知っていた ・ 少し知っていた ・ ほとんど知らなかった ・ 全く知らなかった

② 境界知能について学習する機会について(どちらかに○) **ある ・ ない**

<ある場合>どこで学びましたか。(あてはまるものすべてに○)

研修* ・ 書籍やメディア ・ その他()

※研修(講演会/セミナーを含む)の場合(あてはまるものすべてに○)

自治体や学校等が主催している ・ 自主的に参加している

その他()

③ 境界知能について、「学習したい」または「学習する必要がある」と思いますか。(最も近いもの1つに○)

とてもそう思う ・ 少しそう思う ・ どちらでもない ・ あまり思わない ・ 全く思わない

【境界知能の児童に関する質問】

以下の質問では、担任されているクラスに在籍する境界知能またはその疑いのある（学習の遅れが気になる）児童（以下、対象児Aさん）を1名想定してお答えください。

現在、該当する児童がいない場合は、過去に担当した児童（高学年）でも構いません。

(1) 対象児（境界知能・その疑いの児童Aさん）が在籍するクラスについて

①担任する学級全体の在籍児童数 () 人

②複数担任教員（T 2/3）・支援員の配置（どちらかに○） あり ・ なし

<ありの場合>週 () 時間程度

指導・支援の中心（最も近いものに○） 対象児 ・ その他の児童 ・ 対象児+特定の児童 ・ 学級全体

(2) 対象児の学年 () 年生

(3) 対象児のIQについて（どちらかに○）

検査によって明らかである・ 正確なIQは不明である（境界知能が疑われる）

⇒IQ*の数値 ()

※WISCの場合はFSIQ、田中ビネー・その他の検査の場合はIQとして記載されている数値を記入してください。

(4) 対象児の医学的診断（どちらかに○） あり ・ なし

<ありの場合>あてはまるものすべてに○（重複回答）をしてください。

LD・ ADHD・ 自閉スペクトラム症・ 知的障害・ 難聴/ろう・ 弱視/盲・ 言語障害・
脳性まひ・ 重症心身障害・ 精神疾患・ 身体疾患・ その他 ()

(6) 塾・通信教育等の利用状況（あてはまるものに○） あり ・ なし ・ 不明

【対象児の学習面に関する質問】

I. 国語について

話す・聞く

(1) 対象児の学習レベル（達成度）についてあてはまるものに○印をつけて下さい。

①暦年齢相当 ②1学年遅れ ③2学年遅れ ④3学年以上の遅れ ⑤暦年齢より上の学年

⑥その他 []

(2) 以下の各項目について、対象児への支援の程度としてあてはまる記号を記入してください。

【記号一覧】

◎…常に支援（全般的な支援）を必要とする。

例)

毎回の授業で、難易度や形式を変更した教材・ICT機器を使用するなどの配慮（教材等の配慮）が必要である。

全体指導（指示）のほかに、個別に（1から）説明する必要がある。

毎回の授業で机間指導・個別支援が必要であり、専属の支援員をつける必要がある。

○…半分程度の支援を必要とする。

例)
半分程度の授業で、教材等の配慮が必要である。
全体指導（指示）の後、声かけ・確認が2回に1度程は必要であることが多い。
半分程度の授業で机間指導・個別支援が必要であるが、担任のみでも十分に授業に取り組むことができる。

△…ときどき支援を必要とする。

例)
教材等の配慮が必要な場合もあるが、頻度は少ない。
全体指導（指示）の理解は曖昧なこともあるが、友達に聞く・家庭学習など自分で解決できる。
机間指導・個別支援が必要な場合もあるが、頻度は少ない。

×…支援の必要は無い。

未…未習である。

※項目に複数の学習内容（例：外来語やことわざを理解する）が含まれる場合は、総合的に判断してください。

項目	記入欄 ◎○△×未
例：手を挙げて発表する。	○
場面・相手に応じた口調（言葉遣い）や声量で話す。	
教科書などを音読する。	
ある事柄について、説明の順序（時系列）や話の組立て方などを意識し、分かりやすく話す。	
互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合う。	
話し手の意図や話の中心に気を付けて聞き、質問や感想を述べる。	
話の内容を聞き取り、情報の要点をメモする。	

(3) 「話す・聞く」の領域において、実践している指導（支援）方法を具体的に教えてください。

読む

(1) 対象児の学習レベル（達成度）についてあてはまるものに○印をつけて下さい。

- ①暦年齢相当 ②1学年遅れ ③2学年遅れ ④3学年以上の遅れ ⑤暦年齢より上の学年
⑥その他 []

(2) 以下の各項目について、対象児への支援の程度としてあてはまる記号を記入してください。

※項目に複数の学習内容（例：外来語やことわざを理解する）が含まれる場合は、総合的に判断してください。

II. 算数について

数と計算

(1) 対象児の学習レベル（達成度）についてあてはまるものに○印をつけて下さい。

- ①暦年齢相当 ②1学年遅れ ③2学年遅れ ④3学年以上の遅れ ⑤暦年齢より上の学年
⑥その他〔 〕

(2) 以下の各項目について、対象児への**支援の程度**としてあてはまる記号を記入してください。

※項目に複数の学習内容（例：かけ算やわり算を理解する）が含まれる場合は、総合的に判断してください。

項目	記入欄 ◎○△×未
例：手を挙げて発表する。	△
数の概念を理解する。	
整数の計算問題を解く。	
繰り上がり・繰り下がりのある計算をする。	
筆算を使って計算する。	
九九を暗唱する。	
分数・小数の意味や表し方を理解し、図や数直線などを用いて大きさを表す。	
小数や分数の計算問題を解く。	
文章題を解く（立式する）。	
計算法則（交換法則・結合法則・分配法則など）を理解し、計算する。	

(3) 「数と計算」の授業において、実践している指導（支援）方法を具体的に教えてください。

量と測定

(1) 対象児の学習レベル（達成度）についてあてはまるものに○印をつけて下さい。

- ①暦年齢相当 ②1学年遅れ ③2学年遅れ ④3学年以上の遅れ ⑤暦年齢より上の学年
⑥その他〔 〕

(2) 以下の各項目について、対象児への**支援の程度**としてあてはまる記号を記入してください。

※項目に複数の学習内容（例：比例や反比例を理解する）が含まれる場合は、総合的に判断してください。

項目	記入欄 ◎○△×未
例：手を挙げて発表する。	△
長さ・重さの単位と測定の意味を理解し、計器を使って測定する。	
時計を正しく読む。	
角の大きさを測定したり、作図する。	
面積の単位と測定の意味を理解し、計算によって面積（正方形・長方形）を求める。	

- ①暦年齢相当 ②1学年遅れ ③2学年遅れ ④3学年以上の遅れ ⑤暦年齢より上の学年
⑥その他〔 〕

(2) 以下の各項目について、対象児への**支援の程度**としてあてはまる記号を記入してください。

※項目に複数の学習内容（例：グラフや表を理解する）が含まれる場合は、総合的に判断してください。

項目	記入欄 ◎○△×未
例：手を挙げて発表する。	△
簡単な表やグラフの読み取り方・表し方を理解する。	
折れ線グラフの読み取り方・表し方を理解する。	
円グラフの読み取り方・表し方を理解する。	
資料の平均や散らばりを理解し、度数分布を表す表やグラフをかいたり読み取ったりする。	
文字（□・△・x・y）を用いて立式したり，文字に数を当てはめて調べたりする。	
四則の混合した式や（ ）を用いた式について理解し、正しく計算する。	
伴って変わる二つの数量の関係（比例・反比例）を理解する。	
百分率を理解する。	

(3) 「数量関係」の授業において、実践している指導（支援）方法を具体的に教えてください。

調査 A の質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

調査 (B) 情緒障害のある児童に関する質問

【情緒障害のイメージに関する質問】

情緒障害とは医学的な診断名ではなく、明確な診断基準がなく症状から情緒障害と判断されるケースが多いです。情緒障害の症状は発達障害、知的障害、精神疾患にみられる症状と類似ものも多いといわれています。その背景を踏まえ、先生のお考えで構いませんので、以下の質問にお答えください。

①「情緒障害」と聞くと、どのような状態を指す言葉か明確にイメージができますか。(最も近いもの1つに○)
明確にイメージできない ・ あまりイメージできない ・ 何となくイメージできる ・ 明確にイメージできる

☆「明確にイメージできない」「あまりイメージできない」場合、その理由をご記入ください。

☆「何となくイメージできる」「明確にイメージできる」場合、先生のイメージする情緒障害の状態像について具体的にご記入ください。

②情緒障害とその他の障害（発達障害、知的障害、精神疾患）にはイメージとして違いがあると思いますか。
(最も近いもの1つに○)

全く違う ・ 似ているがやや違う ・ ほぼ同じ ・ 同じ

☆「全く違う」「似ているがやや違う」と回答された方に質問です。

情緒障害とその他の障害(発達障害、知的障害、精神疾患)にはどのようにイメージに違いがあると思いますか。

③ これまでの回答を踏まえ、現在、担任するクラスで情緒障害だと感じる児童は何人いますか？

() 人

【情緒障害のある児童に関する質問】

本研究における情緒障害を『周囲の環境から受けるストレスによって生じたストレス反応として、状況に合わない心身の状態が持続し、それらを自分の意思ではコントロールできないことが継続している状態がある者(発達障害がある場合もあれば、必ずしも障害とは限らない)』と定義します。

以下の質問では、現在担任するクラス、または過去に担任した学級にいた情緒障害のある児童のうち、特に印象に残っている者 1名 (以下、対象児) を選んで、対象児について回答してください。

(1)対象児のプロフィール

①対象児の学年 () 年生 ※あてはまるものに○→ 現在のクラス ・過去に担任したクラス

②対象児の性別 (あてはまるものに○) 男 ・ 女 ・ その他

③対象児の医学的診断 (どちらかに○) あり ・ なし

<ありの場合> あてはまるものすべてに○をしてください。重複の場合、主たる障害を二重に囲んでください。

知的障害 ・ 自閉スペクトラム症 ・ ADHD ・ LD ・ 弱視 ・ 難聴 ・ 肢体不自由 (名称:)
精神疾患 (名称:) ・ 身体疾患 (名称:)

④服薬の有無 (あてはまるものに○) あり ・ なし ・ 不明

(2)対象児の様子について

①学校での生活において、対象児の最も気になる行動や問題を 1つ選んで番号に○をしてください。

1. 場面かん黙	10. 過度に他人に甘える
2. 不登校・登校しぶり	11. 身体愁訴 (腹痛、頭痛など) の訴え
3. 過度の不安	12. 拒食
4. 抑うつ症状	13. 強迫行動 (何度も手を洗うなど)
5. 無気力	14. 抜毛・性器いじり
6. 自傷行為	15. 被害妄想の主張
7. かんしゃく・怒りの頻発	16. ゲーム依存
8. 暴力・身体的な攻撃行動	17. 排尿の失敗
9. 言葉による反抗・暴言	18. その他 ()

☆上記で回答した症状が引き起こされる要因 (原因) にはどのようなものがあると考えていますか。 あてはまるものすべてに○をしてください。

1. 家庭環境の不安定さ	6. 教師との人間関係の問題
2. 知的障害や発達障害などの障害特性	7. 授業中の学習活動になじまない
3. 学校の環境	8. 学年・学校の行事 (イベントなど)
4. 生活習慣の乱れ	9. 部活動
5. 児童同士の人間関係の問題	10. 習い事・塾

☆上記で回答した要因 (原因) について具体的な内容を教えてください。

(例: ①→虐待の疑いがあり、不適切な養育がストレスとなり症状を生じさせている可能性がある。)

② ①で選択した“最も気になる症状”について、学校生活での様々な場面における症状の強さと症状が生じる頻度をお答えください。強さ（上段）と頻度（下段）、それぞれ最もあてはまるもの1つに○をしてください。

登校時	とても強い ・ 強い ・ それほど強くない ・ 強くない
	非常に生じる ・ やや生じる ・ 時々生じる ・ 全く生じない
授業中全般	とても強い ・ 強い ・ それほど強くない ・ 強くない
	非常に生じる ・ やや生じる ・ 時々生じる ・ 全く生じない
対象児が苦手な科目の授業	とても強い ・ 強い ・ それほど強くない ・ 強くない
	非常に生じる ・ やや生じる ・ 時々生じる ・ 全く生じない
特定の科目の授業中	とても強い ・ 強い ・ それほど強くない ・ 強くない
	非常に生じる ・ やや生じる ・ 時々生じる ・ 全く生じない
休み時間	とても強い ・ 強い ・ それほど強くない ・ 強くない
	非常に生じる ・ やや生じる ・ 時々生じる ・ 全く生じない
給食の時間	とても強い ・ 強い ・ それほど強くない ・ 強くない
	非常に生じる ・ やや生じる ・ 時々生じる ・ 全く生じない
集会などの集団活動時	とても強い ・ 強い ・ それほど強くない ・ 強くない
	非常に生じる ・ やや生じる ・ 時々生じる ・ 全く生じない
運動会などの行事	とても強い ・ 強い ・ それほど強くない ・ 強くない
	非常に生じる ・ やや生じる ・ 時々生じる ・ 全く生じない
下校時	とても強い ・ 強い ・ それほど強くない ・ 強くない
	非常に生じる ・ やや生じる ・ 時々生じる ・ 全く生じない
放課後の活動	とても強い ・ 強い ・ それほど強くない ・ 強くない
	非常に生じる ・ やや生じる ・ 時々生じる ・ 全く生じない

(3)対象児の支援ニーズ及び支援方法について

① (2)①で回答した“最も気になる症状”が、学校生活において対象児にどのような課題（支援ニーズ）をもたらしていると思いますか。あてはまるものすべてに○をしてください。

1. 日々の学習の遅れが生じている	7. 生活リズムが整わない
2. 学校の活動について意欲が低下している	8. 身の自立ができない
3. 集団活動を行うことが出来ない	9. ルールを守ることが出来ない
4. 他者と安定した対人関係が築けない	10. 非行といった深刻な問題を生じさせている
5. 主体的なコミュニケーションをとることが出来ない	11. 自己肯定感の低下
6. 学校内で孤立している	12. その他（ ）

②対象児の抱える支援ニーズについて日ごろどのような支援を行っていますか？

